血液検査項目と検査でわかること

当センターでは、下記項目の血液検査を院外処方せんに表示しています。

【検査項目と説明】

★血球★

白血球数	細菌やウイルスから守る免疫の働きをします。
好中球数	白血球の１種で、細菌や真菌から体を守ります。
血色素量	赤血球の中に含まれる酸素などを運ぶ成分です。
血小板数	出血したときに血液を固めて止血する働きをします。

★肝臓★

GOT（AST）	心臓、肝臓、筋肉、腎臓などの多くの臓器に存在する酵素です。
GPT（ALT）	GOT と同じく多くの臓器に存在しますが､主に肝臓に存在する酵素です。
血中アンモニア	肝障害があると高くなるため肝機能の指標となります。 薬剤の副作用の確認に用いることがあります。

★腎臓★

クレアチニン	筋肉内にあるクレアチンの最終産物で、腎機能の重要な指標です。

★尿酸★

尿酸	尿酸値が高くなると、痛風や腎障害の原因となります。 また、高い状態が続くと動脈硬化の原因となることがあります。

★甲状腺★

TSH	FT4 と合わせ、甲状腺機能の指標となります。
FT4	TSH と合わせ、甲状腺機能の指標となります。

★その他★

CPK	筋肉や脳などの組織細胞障害の有無を判断する指標となります。 精神症状悪化時にも高くなることがあります。
ナトリウム	体液や血圧の調節、神経と筋肉が正常に機能するのに必要な電解質です。
カリウム	細胞、神経、筋肉が正常に機能するのに必要な電解質です。
マグネシウム	骨や歯の形成、神経や筋肉が正常に働くために必要な電解質です。 下剤服用中の方で検査を行うことがあります。

これらの検査の他、必要に応じ下記薬剤の血中濃度を測定することで、薬物療法の有効性・安全性の評価に役立て、治療の適正化に努めています。

（うらに続きます）

【当センターで血中濃度を測定できる薬剤】

- カルバマゼピン（テグレトール）
- 炭酸リチウム（リーマス）
- トピラマート（トピナ）
- バルプロ酸ナトリウム（デパケン、セレニカ）
- ラモトリギン（ラミクタール）
- ハロペリドール（セレネース）
- クロザピン（クロザリル）　　　　　　　等

【血液検査でわかること】

- 生活習慣病の中には、自覚症状が現れる前に病気が進行してしまうものもあります。定期的な血液検査を行うと、経時的な変化が確認できるようになるため、病気や生活習慣病の予防や早期発見を行いやすくなります。
- 血液検査を定期的に行うことで、服用中の薬剤による副作用を早期に発見しやすくなります。
- 薬物の血中濃度を測定することができる薬剤では、その血中濃度を測定することで、１人１人に最適な薬物治療を提案することができます。

【血液検査を受ける際の注意点】

- 血糖値や薬剤の血中濃度等を正しく測定するためには、前日から準備が必要なことがあります。血液検査の際は医療スタッフの指示に従い準備をお願いします。

★クロザリルの血中濃度測定ができるようになりました★

クロザリル治療を安心して続けるために、白血球数、好中球数、血糖値、HbA1c等の検査を定期的に行う必要があり、その結果を基に投与量等を検討します。

当センターでは、それに加えクロザリルの血中濃度を測定することができます。血中濃度測定を行うことで、１人１人に最適な投与量が提案できるようになります。

クロザリルの血中濃度検査は任意です。クロザリルを服用していて興味を持たれた方は、検査について主治医にご相談ください。

【参考】・日本予防医学協会ホームページ（https://www.jpm1960.org/jushinsya/exam/）
・改訂６版薬剤師のための臨床検査の知識（じほう）
・今日の治療指針 2023（医学書院）
・肝炎.net ホームページ（https://www.kanen-net.info/kanennet/index）